

パラグアイ情勢 (2025年12月)

【国内政治】

- 2026年国家予算承認

2日、下院は、2026年国家予算を承認した。最終的に承認された予算額は、前年比約12%増の149.6兆グアラニー（当時のレートで約189億米ドル）に上り、行政府が提出した当初案から約4億グアラニーの増額となった。

- パラグアイの人口推移予測

6日、国家統計局の報告を参照し、パラグアイの人口は2050年に710万人に達するとの予測が主要メディアで報じられた。人口増加の傾向は2050年まで続くとの見込みが示されたが、人口増加率は年々緩やかになり、出生率の減少についても指摘され、高齢化が徐々に進むとの予想が示された。

- バス運転手によるストライキ

16～17日、運輸労働者連盟(Fetrat)と全米運輸労働者連盟(FUTT)は、議会で可決された公共交通改革法に抗議するためのストライキを行った。政府は、ストライキによる国民の不便を解消するため、臨時無料バスを運用し対策を行ったと報じられた。

- 教育機関における2026年新学期開始日程を決定

19日、教育科学省は、教育機関における2026年のアカデミック・カレンダーを決定し、新学期を2月23日に開始し、11月30日までに184日の授業日を設けることが定められた。また冬期休暇は、7月13日～24日と決定された。

- 議会の休会

19日、議会内に常設委員会が設置され、議会が2026年3月1日まで休会となった。これに伴い、上院6名、下院12名の常設委員会委員が任命された。

【対外関係】

- ペニャ大統領のハンガリー訪問

7～9日、ペニャ大統領は、パラグアイ大統領として30年振りにハンガリーを公式訪問し、シュヨク大統領との首脳会談やオルバーン首相との会談を行った。特にオルバーン首相との会談では、地域統合プロセス、二国間の協力関係強化について協議されたと報道された。

- ペニャ大統領のノルウェー訪問

10～11日、ペニャ大統領はノルウェーを訪問し、ハラルド5世国王との会談で、クリーンエネルギー等に係る両国間の共通点に言及し、二国間関係強化の必要性について再確認した。滞在中、ベネズエラの野党指導者マチャド氏のノーベル平和賞授賞式に出席すると共に、マチャド氏と会談し、ベネズエラの民主主義への支持を改めて強調した。

- ペニャ大統領のウズベキスタン訪問

11～13日、ペニャ大統領は、ウズベキスタンをパラグアイ大統領として初めて訪問し、ミルジョエフ大統領との首脳会談において、特に開発分野における両国の協力可能性について協議した。滞在中、国際自動車連盟（FIA）からの招待を受け、首都タシュケントで開催されたワールドラリー授賞式に出席し、イタプア県で開催したワールドラリーに関し、2025年ベストワールドラリー賞を受賞した。

- ラトレ下院議長とベジョ・アスンシオン市長のイスラエル訪問

14～16日、ラトレ下院議長は、ベジョ・アスンシオン市長を伴ってイスラエルを訪問し、ヘルツォグ大統領やオハナ・イスラエル議会議長と会談し、両国間の絆の強さを再確認した。訪問は、ユダヤ教の主要な祝日ハヌカの時期に行われ、戦没兵士やテロ被害者を追悼するための献花も行われた。

- ラミレス外相の訪米

15日、ラミレス外相が訪米し、ルビオ米 국무長官と共に二国間の安全保障協力協定に署名した。米州における民主主義、法の支配、人権の有効性を強化することが主な狙いと説明され、組織犯罪対策に関する協力も含む旨報じられた。

- ペニャ大統領のメルコスール首脳会談への出席

20日、ペニャ大統領は、伯フォス・ド・イグアスで開催されたメルコスール首脳会談に出席した。当初、署名予定であったメルコスール・EU通商協定は署名延期となったが、ペニャ大統領は、他の国・地域との通商協定も積極的に模索して行くべきとの考えを示した。また、パラグアイは、同会合で2026年上半期のメルコスール議長国に就任した。